



二十歳の皆さんに贈る言葉

熱海市長 齊藤 栄

今年もまたMOA美術館能楽堂で「二十歳の集い」が開催されました。私も市長になって20年目となり、20年と言う時間を共に過ごしてきたことに思いをはせて、二つのメッセージを贈りました。

一つ目は「社会は自分達の力で変えられる」ということです。私は二十歳の時に大学三年生の夏休みを使い、海外研修で東欧の旧チェコスロバキアに行きました。当時は社会主義国で国民の自由は大きく制限されていました。その11年後に、民主化や分離独立を経たスロバキアを目の当たりにし、社会は変えることができるのだと強く思うようになりました。

二つ目は「どんなことでも10年やり続ければ実現する」ということです。私が市長に就任した当時、熱海市の財政赤字は過去最大、宿泊客数は過去最低という状況でした。しかし、市民をはじめとする多くの方々の協力を得て、厳しい行財政改革によって赤字を10年で解消し、「意外と熱海」プロモーションなどを仕掛けて、約10年で熱海のイメージを若者にも人気の温泉地に変えることができました。また、現在活躍中のゴルフの渡邊彩香プロや大相撲の熱海富士関も、「自分は将来プロになる」と目標を立ててから、その舞台に立つまでに約10年を費やしています。

二十歳を迎えた皆さんにはこれから未来をつくる時間があります。努力を重ね、人生の主人公として夢や目標を実現していただくさい。「未来をつくるのはあなた」です。



新たな観光基本計画

熱海市長 齊藤 栄

熱海市は今、新たな観光基本計画を策定中です。観光基本計画は、観光振興の大きな方針を中長期的な視点で定めるものです。最初の基本計画が2007年に策定され、今回が三度目です。2030年を目標とした今回の計画は、これまでとは一線を画したものとなる見込みです。

まず、目指すべき方向として「温泉リゾート熱海」を掲げました。これまで熱海市は「温泉観光地」という言葉を使ってきましたが、これからはより質の高い、世界に通用する一流リゾートを目指そうとするものです。これは簡単なことではなく、時間もかかります。景観も含めたさまざまなインフラ整備をはじめ、提供するサービスのレベルも上げていかなければなりません。昨年スタートさせた宿泊税や熱海観光局を活用しながら、まずはその基礎を作っていきたいと考えています。

また、「観光と市民生活との調和」を重点テーマの一つとしました。これは、渋滞対策などのいわゆるオーバーツーリズムを防ぐといったことにとどまりません。観光振興による恩恵を市民の皆様が実感できるようにすることで、市民満足度が向上し、ひいては市民一人ひとりが自らのまち熱海に対する誇りを持つようになることを目指しています。

難易度が非常に高い計画ではありますが、計画が策定された後、新年度からその実現に向け、オール熱海で力を合わせて取り組んでまいります。